

和地ひとみレポート No.403

新型コロナウイルスのワクチン接種

概ね順調に進んでいる東大和市・・・でも、 ワクチン配分量が減る見込みでスピードダウン？



■ワクチン接種が感染拡大を食い止める鍵

…オリンピックの大会期間中は、連日、選手の活躍を伝えるニュースが報道されていたと同時に、東京都だけでなく、日本全国の新型コロナウイルスの新規陽性者数の増大が加速していることも報道されていました。この明暗のギャップの大きな内容が同時に報道されている状況には、今まで経験したことのない複雑な気持ちにさせられました。

…新規感染者数が増加傾向にある日本は、いわゆる第5波が来ている状況。今現在は、感染力の強い変異種デルタ株に8割以上が置き換わっていることが感染拡大の主な要因とされており、医療現場のひっ迫も問題となっています。また、常に基本的な感染対策を徹底していた人も“どこで”、“どうして”感染したのかが本人もわからない例も。このような中ですが、個人個人としては、感染予防の基本を徹底するしかないようです。国や都の対策をみても、特段新しいことはなく、やはり現実的には、接種を希望する人のワクチン接種を早く進ませることのみが、感染拡大を食い止める具体的な対策となっているように感じます。

■東大和市のワクチン接種の状況は

…この新型コロナワクチンの接種は、海外では昨年からスタートしていますが、日本においては医療従事者などから順に今年の2月17日からスタート。また、接種については、基礎自治体（市区町村）での集団接種やクリニックなどでの個別接種、自衛隊などによる大規模集団接種、職場や大学などにおける職域接種と大きく3種類あり、市区町村ではファイザー社のワクチンを使用し、大規模集団接種と職域接種ではモデルナ社のワクチンを使用しています。

…そのうち、職域接種については6月23日にモデルナ社のワクチン供給が間に合わなくなるため、申請を一時休止することを国は発表し、ワクチン不足で混乱が生じました。一方、ファイザー社のワクチンを使用している基礎自治体における接種についても、不足が生じる自治体もあり、予約済みの人の変更を調整するなど、こちらも混乱が生じる事態に。幸い、東大和市においては、慎重に進めていたこともあり、ワクチン不足による大きな混乱はありませんでした。しかし、首相が『65歳以上の接種を希望する人の接種を7月末までに完了させる』という方針を表明。そのため、東大和市は、医師会の協力を得て、新たな接種会場を用意し、7月末日までに接種が間に合わない65歳以上の予約者に対し、ハガキを郵送して予約の前倒しをする等の対応で、少しバタバタしました。

…このような接種の前倒しの対応を行ったことにより、東大和市においては、65歳以上の接種希望者への2回目の接種を無事終了。65歳以上の市民の約8割が接種済となっています。

…そして現在は、45歳以上の市民までの接種予約を受け付けており、追って9月上旬ごろからは35歳～44歳の方の受付開始を予定。その後の9月下旬ごろからは16歳以上の接種予約を受け付ける予定で東大和市のワクチン接種は進んでいます。

※12歳から15歳の市民については、国の通知に基づき慎重に進めるため、現時点では、スケジュールは未定です。

■スケジュールが遅れる可能性も

…このように、概ね予定通り順調に進めている東大和市のワクチン接種ですが、8月10日付で東京都福祉保健局から、各市区町村に配分するワクチン量が予定より少なくなる旨の通知がありました。

…その通知の内容は以下のとおりで、「8月3日の時点では、8月30日から10月4日までの間の東大和市へのワクチン配分数は23箱見込まれていたが、今回の通知では6箱になる」とのことです。

【東京都の配分数と東大和市への配分数】

◆8月30日の週と9月6日の週（確定）

- ・国から都への配布数：716箱
- ・都が設置した大規模接種会場への配分：278箱
- ・東大和市への配分：2箱

それ以後の区市町村への配分予定数については、今後の厚労省からの通知で変更の可能性はあるが・・・

◆9月13日の週と9月20日の週（予定）

- ・東大和市への配分：2箱

◆9月27日の週と10月4日の週（予定）

- ・東大和市への配分：2箱

【上記の東京都の通知どおりとなった場合の

東大和市の配分数】

◆ワクチン1箱＝接種1,170回分

- ・8月3日時点＝配分予定は23箱＝26,910回分

↓

- ・8月10日の都の通知＝配分予定は6箱＝7,020回分

→その差19,890回分、当初の予定より大幅に減少

（裏面に続く）

■配分数の大幅減による影響は

…この8月10日付の東京都福祉保健局からの通知を受け、東大和市としては、市民のワクチン接種に支障が生じないように、市長会を通じて、国および東京都へワクチン配分の改善を求めるとのことです。

…たしかに前述のとおり、東京都からの通知では、9月13日の週以後の配分は、厚労省の通知の内容により配分数が変更となる可能性はあります。一部では、感染拡大が広がっているエリアに優先的にワクチンを配分する方が良いという意見もあるので、市長会からの要望などにより、配分量が改善される＝増加される、もしくは当初通りとなる可能性はゼロではありません。

…しかし、これは希望的観測とも言え、未確定。もし、都の通知通り6箱しか配分されない場合、市は、9月13日以後の集団接種等における予約受付の見直しの検討が必要となってくると考えています。

…幸い、現時点では9月13日以後の予約は受け付けていないため、予約していたのに変更しなければならない人は発生しないとのこと。よって、9月13日以後の予約枠を配分されるワクチンの量に合わせて調整する形で市は対応するようです。

…ちなみに、東大和市の場合は、旧みのり福祉園で実施している集団接種会場と市内の26か所のクリニック等で実施している個別接種とがありますが、これらのワクチンの配分は、今まで、概ね半々としているとのこと。しかし、今後、配分されるワクチン量がこれほど減少するとすると、個別接種と集団接種での配分の調整も難しくなるのではないかと思います。

■市は最善を尽くすしかない…

…65歳以上の多くの方がワクチン接種を終えたことを受け、最近の感染者、重症者などは40代、50代の方が増加傾向と報道されています。都知事からも「若い人も早くワクチンを接種してほしい」とのコメントがあったようですが、ワクチンを接種したくても予約が取れないという人が多くいるようですが、今のところ、東大和市では予約が取れないという苦情や混乱は報告されていません。しかし、今回の配分量の大幅減少となった場合には、今後のワクチン接種にどのような混乱が起こるかについては予測が立ちません。

…前述の通り、東京都も国からのワクチン配分を都内の区市町村に配分している状況で、そもそもの国からのワクチンの配分量が基本となっている状況です。実際にワクチン接種を行っている市区町村、東大和市は、与えられた条件の中で最善を尽くすしかありません。

…8月10日、国は、アストラゼネカ製のワクチン52,800回分を緊急事態宣言が発令中の東京、埼玉、千葉、神奈川、大阪、沖縄の6都府県に配分すると発表し、東京都では武蔵野市が運営する接種会場と都が運営している大規模接種会場で使用することを調整中とのこと。そして、他の区市町村にも都は意向を確認しているとのことですが、アストラゼネカ社製のワクチンは、原則40歳以上の方が対象。よって、接種の予約やオペレーションが混乱する可能性も。東大和市が導入するかについては、今のところ情報はありませんが、個人的には、今までのようなワクチン接種の進み具合であれば、東大和市はアストラゼネカ社製ワクチンの必要性は低いのではないかと思います。

東京2020パラリンピック

東大和市内の聖火リレーも学校連携観戦も中止決定…

…8月24日に開幕する東京2020パラリンピック。東大和市では22日に聖火リレーとミニセレブレーションを実施する予定でした。しかし、東京都聖火リレー実行委員会事務局は10日、20日～24日に都内で実施されるパラリンピック聖火リレーの公道での走行を中止することを発表。東大和市がコースとなっていた22日は、国立市、日野市、立川市、東大和市、国分寺市で聖火リレーが行われる予定でしたが、“当日の最終区間である国分寺市内のセレブレーション会場で点火セレモニーのみ実施”ということになりました。

…しかし、8月5日にはパラリンピック日本代表選手団の団長が千葉県知事に「多様性を尊重する共生社会を育むまたとない契機になり、日本の将来を担う小中学校・高校・特別支援学校の児童、生徒の皆さんに競技会場に来て観戦してもらいたい」旨の要望書を提出したとの報道が。その5日後の8月10日には、政府が小中高生にチケットを割り当てる『学校連携観戦プログラム』を予定通り実施するために、会場のある東京都、千葉県、埼玉県、静岡県と連携して、各教育委員会への協力要請に乗り出したとの報道もありました。

…このような状況を受け、11日、東大和市議会議長の関田議員と私、公明党の議員、無所属の中村議員で東大和市教育長と意見交換の場を持ち、現状と市の考えを確認。懸念されたのは、近隣他市が学校連携観戦を実施するのに、東大和市は中止という事態が起こりうるか、またその逆もあるのかということ。観戦については賛否両論ありますが、実施する自治体も、中止する自治体もそれなりの科学的根拠を添えて理由を説明する必要が出てくると思います。当市の教育長は「様々な活動や行事が中止ばかりの昨今、子どもたちのために実施してあげたいという思いはあるものの、感染が目に見えないものであることと、デルタ株の感染力も強いことを踏まえ中止を決定した。都内の区市の教育委員会に確認しましたが、中止という決定を変える予定はないとのことだ」とのことでした。

…その後、12日の報道では、緊急事態宣言が発令されている東京都、千葉県、埼玉県においては、パラリンピックも無観客で調整しているとの報道が。残念ですが、このコロナ禍では学校連携観戦中止も仕方ないと思います。

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート。コロナ禍において、駅頭での配布は一時、控えております。

【プロフィール】「私たちの身近にある市政、市議会。伝えることがスタートだと思います。」



東大和市 市議会議員
和地 ひとみ

1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山あいの小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元氣印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。『学校』の外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク（※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換）に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。月刊誌『日経WOMAN』のベンチャー企業で活躍する女性特集で取り上げられる。その後、人材開発部長を拝命。『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後は、不動産投資会社にて企画業務、税理士対応、広報、社員研修、組織活性化などに従事。2011年4月、初当選。現在3期目。顔の見える議員として、日々奮闘中。

■ 連絡先

和地 ひとみ事務所

HP : <http://www.wachi1103.jp>

✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp

【電話・FAX】 042-516-8546

〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102